

3. 国立公園70周年記念トーク「阿蘇の魅力を書す」

【長野良市氏 / 写真家】



写真集『阿蘇・宇宙』に基づいた107枚の写真を映写して思いを語る

ただいまご紹介にあずかりました長野良市です。私の仕事は写真を撮る事です。写真家は写真を撮り、写真展を行ない、写真集を作るというのが一つの大きな仕事の流れです。今日は講演というよりも、後のパネルディスカッションに話が繋がっていくようにと思い、用意した107枚の写真を映写をしながら話を進めたいと思います。

私は1983年に文学部を卒業後、写真家を目指すために写真学校に行きました。7年間の学生生活を終えて阿蘇に戻ってから、22年、その間に、私としては大きな仕事として力を入れた写真集『阿蘇』が、1992年に時事通信社から出版されております。その後、熊本日日新聞社から『阿蘇・宇宙』という写真集を出版しました。最初の写真集『阿蘇』は、私が子供時代を過ごした昭和30年代の阿蘇、山野を駆け巡り自分が子供の時代からイメージしていた阿蘇を大事にして、できるだけ人工物的なものを避けて写真を撮りました。『阿蘇・宇宙』の方は、1年間を通して阿蘇の民俗をまとめようと思い、阿蘇神社の祭事を中心とした写真集となっています。

今日はこの『阿蘇・宇宙』の中から写真を選んで、映写していきたいと思います。

阿蘇の写真を撮る上での一つのテーマは「峠から見た阿蘇」

【写真1】北外輪山から阿蘇五岳を見た風景です。中岳が噴煙を上げているので、昭和最後の噴火活動時の写真です。手前の草原の状態から、当時は良好な草原状態がひろがっていたことが分かります。周囲が138キロといわれる外輪山の中での、平坦な山が続く北外輪山の特徴をよく表しています。

【写真2】依山峠の方から見た南外輪山の方の風景です。南外輪山は山々の起伏が激しく北外輪山の平坦な風景とは違う様子を見せています。

【写真4】一般的には外輪山が唯一切れているところが立野火口瀬と言われております。白川は黒川と合流する戸下峡谷から熊本市内方面に流れはじめます。これは瀬田地区から立野火口瀬を見ています。

今私は、写真を撮る上でのひとつのテーマとして、「峠から見た阿蘇」というタイトルで写真を撮っていかうと決めております。なぜかと言いますと、私が住む長陽村（現南阿蘇村）も谷底にあるのです。

阿蘇に住んでいると、多くの方から「阿蘇に住んでいてよかね。」とか、「とてもいい所に住んでいるね。」と言われますが、谷底で生活している私たちは、阿蘇のよさを日常生活のなかでは忘れてしまいがちです。そういう意味で地域の住民が阿蘇の良さを唯一確認できる場所が、峠だと私は思っています。

南小国に抜ける時は大観峰を通過していきます。熊本市内や、熊本空港方面に行くときは最近では依山トンネルを通りますが、以前は依山峠を越えていたし、蘇陽、高千穂方面に行く場合には高森峠を越えるわけです。その峠越えをする時に、自分達はとても素晴らしいところに生活しているということを確認することができるのです。



【写真5】瀬の本高原で、竹田方面に抜ける国道から見た産山の草原と五岳で、季節は2月です。ちょっと雨が降っていると思ったら、その時は山に行かれることをおすすめます。外輪山に上がるとこういう大雲海の風景を見ることができると思います。

【写真6】大観峰から見た阿蘇五岳です。阿蘇山という山そのものはないのですが、阿蘇五岳は阿蘇を確認できる1つのスポットではないかと思えます。

【写真7】二重峠から阿蘇五岳を見ております。太陽がほぼ五岳の中央から上がります。

【写真8】依山峠から見た南阿蘇、南郷谷を越えてみる朝日です。峠から見る阿蘇、阿蘇五岳の写真を、世界の阿蘇とか、世界のカルデラという言葉の裏付けとしてお見せしました。

私たちは火山の中で生活している

【写真9】ここからは、中岳を中心とした写真で、私たちは火山に居るということをお見せします。

【写真10】砂千里です。砂千里周辺には植物が生えないと言われます。ガスの影響や土壌の性質もあろうかと思われれます。火山の影響で非常に大陸的な風景であるとかダイナミックな風景であるといわれています。

【写真11】中岳の火山活動で、火山灰を噴出し始めている状況です。

【写真12】火焰現象からストロンボリ式噴火等々を経てそして火山灰を噴煙し始めている状況です。5分間開放撮影したので、実際にこういう風には見えません。

【写真13~14】一度噴煙を吹き上げるとかなり激しいものになり、火山灰が写真のように降ってくるわけです。この時は秋で北風が吹いており、北から南の方に火山灰が降っている状況です。

【写真15】ミヤマキリシマが咲いているので季節は春で

す。時期は火山活動が秋から春にかけておさまらなかった昭和最後の火山活動であったと記憶しております。

【写真16】ミヤマキリシマは九州の火山地に咲くツツジ科の植物として雲仙・くじゅう・霧島などに咲いているのですが、この写真は火山灰を受けて火山灰まみれになった例です。

【写真17】火山灰の影響を受けて、その中で生活している人たちの風景、ハクサイ畑が火山灰の影響を受けた状態です。しかし、私たち阿蘇に住む人間と、中岳（火山）との付き合いは切っても切れないのです。

【写真18】阿蘇神社の祭事には、火山を鎮める行事があるのです。これは5月に行われる御幣の儀で、御幣を中岳火口に供える儀式があります。実際には、この写真のあとに御幣を火口に投げ入れることになります。

【写真21】その他、阿蘇神社の特徴ある祭事としては節分祭があり、非常に変わった内容で行われています。

【写真22】夏の「おんだ祭」の宇奈利の行列です。

【写真23】変わったところでは風祭と称する神事も行われています。

阿蘇独自の景観と生業、最近の変化

【写真25】次に農作業との関連をお見せしたいと思えます。これは私が住んでいる南阿蘇の夜峰山、海拔913メートルの頂上から南郷谷を見下ろしたところです。この起伏の激しい山容、その間に草原があるわけなのですが、その特徴がわかっていたかと思えます。

【写真26】これは東京から帰際の飛行機の中から撮影しました。飛行機は大観峰を通過して熊本空港に降り立ちます。森林にカルデラ火口壁の部分が覆われて、その上に北外輪山の草原が見えますが、上から見下ろすと草原の広さや自分達の位置関係を確認できます。非常におだやかな空間の写真で、こういう風景を見ると「幸せだ



写真9



写真15



写真17



写真18



写真22



写真26

なぁ」という感じを持ちます。いつも、そういう幸せの空間としての阿蘇を撮りたいという気持ちで、写真を撮っています。

【写真 28】これは波野村あたりでよく見る風景です。火山灰土層の状態と草原、そして草原に火入れをする際に杉山に火が入らないために、輪地切りをするという関係を写しました。北外輪山には草原が広がります。

【写真 29】野焼きの時の火の勢いは人物の高さで分かっているかと思えます。火はすごい勢いになります。

【写真 30】草地です。晩夏の 1 コマで、草を刈っていく方々が少なくなっていると思いますけれど、夏の終わりから秋にかけて、こういう風景は日常的なものです。

【写真 31】俵山峠のススキ野原です。私の写真の恩師に言わせると、こんな草原は見たことがないと非常に感激していた一角です。このあたりに最近大きな変化がありました。このことはディスカッションの時に少し触れたいと思います。私はこのような風景が阿蘇独特の景観だと思っています。

【写真 32~34】：俵山の採草地の様子です。最近トラクターが入って、草を梱包し、ロールにする人が増えたため、このような、カヤの草小積みがなかなか見られなくなってきました。

【写真 35】：ここから米塚の写真をお見せします。米塚は非常に面白い形をしています。それは火入れをする場所、草を刈る場所とそれぞれを管理している牧野組合が違うからだと思えます。

【写真 36】雪が降ると草刈りしたところとしないところが模様になって、非常に面白い風景になります。

【写真 37】梅雨明け頃の雲海と米塚ですが、見られるようでなかなか見られない風景です。

【写真 38】米塚周辺は 7 月、8 月にかけてユウスゲの群生地になります。この時期は草地も人の背丈ほど伸びており、中に入っていくことも簡単には出来ないようです。

【写真 39】私が、非常に好きな牛の写真です。

【写真 40】俵山近くの草原の風景ですが、今回のテーマに沿って話しますと、ここは火入れが行われている草地である事が分かってきました。

【写真 41】私たちの地区が毎年参加しています烏帽子岳南山麓、つまり地獄垂玉温泉の北側にあたる原野ですが、このように燃えていた時期がありました。約 15~6 年前です。今は殆ど草地改良が行われまして、こういう野焼きは行われていません。

【写真 42】北外輪山から見たミルクロードの風景です。むこうの山々を見ていただくと位置関係がわかっていたかと思えます。これは野焼き直後の風景です。

【写真 43~44】それが少し経つとこのように、緑色に芽吹き始めて、一番綺麗な時期に入っていきます。

阿蘇の草原に咲く希少な植物

【写真 45】野焼き後一番に咲くのがキスミレです。どうして野焼きをした方がいいのかという話の中にこの植物の話が必ず出て来るわけですが、この写真は野焼き後に最初に見る花、キスミレの群落です。

【写真 46】は、夏のあるいは阿蘇を代表する野草の花としていつも語られている、ヒゴタイです。

【写真 47】サクラソウです。盗掘騒ぎが続いている為、撮影場所は言えません。

【写真 48】久木野の獅子が岩周辺です。このあたりの草原は、カヤを中心に様々な植物が雑多に生育しています。

【写真 49】こういう場所ではカワラナデシコも他の雑多な植物に埋れた状態で咲いています。



【写真 50】はエヒメアヤメ（親指ぐらいのアヤメ）の花です。阿蘇でも北外輪山周辺の、ごく一部の地域にしか咲いておらず場所は秘密です。

【写真 51】は高森の野草公園のハナシノブです。

【写真 52】は高山植物としてよく知られるマイヅルソウ。

阿蘇の森林風景

【写真 53~54】阿蘇を語る上で避けて通れないのがヤママキリシマで、烏帽子岳や中岳の南側周辺に生育しています。

【写真 55】これは杵島岳の内側の森林地帯です。木に覆われてできた風景というのも阿蘇の風景であり、野焼きを行わないならばこういう状態になっていくだろう、ということがさまざまな文献に載っています。

【写真 56】北向山、地元では黒山と言っていますが、北向谷原生林の内部になります。

【写真 57~58】は根子岳の谷の樹林です。谷筋には落葉樹がたくさんあり、人が植えたシイタケのホダ木用のクヌギ林もあります。クヌギと草原の関係も、議論してもいいのではないのでしょうか。

【写真 59】は谷筋に南小国の方に入っていく原野ですが、台風の影響を受けずに残っている木にはすごく立派なものがあり、風景としては感動的です。

【写真 60】樹林の間に点在する白い塊が、ロールです。

阿蘇の草原で暮らす動物たち

【写真 61~62】オオルリシジミは草原の代表的な蝶として語られます。この草が食草でクララという植物です。羽根を広げるときにルリ色をしているからオオルリシジミという名前が付いているのでしょう。

【写真 63】こちらはクヌギ林の中のオオムラサキです。国蝶ですが、クヌギ林のあたりにはたくさんいます。

【写真 64~66】これは猿、次が狐です。そしてまた牛（の写真）に戻ってきました。

【写真 67】これは産山の改良牧野で、草が伸びきったところですが、先程の草原とは違うことがおわかりになると思います。

【写真 68~69】これは、牛が歩く跡です。この辺は後ほどパネルディスカッションで話される井さんが詳しいと思います。

帰化植物や新たな土地利用

【写真 70】この植物は帰化植物のオオハンゴンソウですが、牛も食わない花だそうで、セイタカアワダチソウのように、しだいに草原を侵略していく花ではないかとみえています。専門家がいらしたら教えていただきたいと思っています。

【写真 71】これは南小国の平野台で撮ったラベンダー畑です。草原の使い方の一つとしてもありかなというのがうぶ川の花公園の土地の使い方だと思います。

映像的な面で今後も草原再生に役立ちたい

時間の関係でここで発表を終わり、私の意見はパネルディスカッションで話させていただきまます。

私は自分の住んでいる、「幸せの空間としての阿蘇」という目で写真を撮ってきて、今後も撮っていくと思います。映像的な部分で草原維持に、役に立つことができたならば、阿蘇に住んでいる者としてこんなに幸せな事はありません。



写真 49



写真 53



写真 55



写真 61



写真 65



写真 70